自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人　阪本医院
（ユニット名）	グループホーム悠久 1
所在地（県・市町村名）	八尾市大字山畑1番地
記入者名（管理者）	藤沢　美保
記入日	平成　19　年　12　月　25　日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念とは別に、地域密着型になったため、これまでの理念を見直し、グループホーム独自の理念を掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、1階エレベーター前と、各階共誰でも目につきやすい場所に掲示、毎朝申し送り時唱和し確認している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	面会時に理念を説明したりしている。また、地域運営推進会議でも伝えている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方の入居が多いため、散歩時、声かけして頂いたり、野菜や、花等持ってきたりされる。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	7月の夏祭り、10月の文化祭（作品出展）に参加。地域の青年団の協力あり、移動時車イスを抱えてもらったり、交通整理等をしていただいた。毎年行っている。	○	地域の行事に参加するには、1年前から、区長さんと連携を取る必要ありのため、連携を取るようにする。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	〇事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	廃品回収に協力している。ダンボール、新聞を出している。地区の年末夜警に参加を希望したが、1年前から、申し込み必要との事で、今年は中止となった。	〇	高齢クラブのかたと連携をとっていくようにする。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	〇評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や、目的を全職員に伝え、サービスの質の向上に努めている。		
8	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議をとり意見を交換している。一人でも多くの参加を希望したら、老人会の方が、声をかけられ、いつも参加していただいている。	〇	今後婦人会のかた、子ども会の方々とも交流を図っていく。
9	〇市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回会議に参加していただいている。参加できない時は、会議録を送っている。		
10	〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内容について、全員が、理解し御家族様から聞かれても説明できるようにしている。その旨掲示している。		
11	〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止ハンドブックを参考に時々勉強会をとっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4．理念を実践するための体制				
12	〇契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時必ず説明している。		
13	〇運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者様の声に耳を傾けている。利用者様も何でも話していただいている。其の都度対応している。		
14	〇家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全員面会に来られるので、面会時に報告している。金銭管理については、金銭出納帳に記載しているので、確認していただいている。		
15	〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を設置している。また、面会時に気軽にこえかけ、意見を聞いたりしている。		
16	〇運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	其の都度意見を聞き反映させている。		
17	〇柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	努めている。また、職員も突然勤務交代があっても気持ちよく引き受けてくれる。		
18	〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職はありません。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内、外、研修に参加している。また、毎月の法人全体のミーテイングでは、交代で活動報告をしている。また、研修参加時報告会をとっている。		
20	〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市であった、ケアプランの勉強会に参加したり、向かいにあるグループホームさんと交流しました。ゲームをしたり、駄菓子屋さん、お茶会を企画し、皆さんとても喜ばれました。		
21	〇職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	代表者を交えて慰労会をっとている。また、勤務中にストレスを感じたら、すぐに交代して、休憩をとるようにしている。		
22	〇向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	目標を持つ事を常に話している。それに向け研修会へ参加必要な時は、勤務状況に配慮している。資格習得に向け努力している職員が多い。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	〇初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人はもちろん、家族様の思いに耳を傾け、何でも話していただけるような、また、どんな小さな事でも様子を必ず報告し、信頼関係を築く事を第一に心掛けている。		
24	〇初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時必ず話をよく聞くようにしている。利用前調査時、必ず聞き調査表に記入している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	〇初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず相談時、今の段階に合ったサービスについて説明している。		
26	〇馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に面会に行ったり、事業所にきていただいたりしている。また、利用が決まったら食事を一緒にしたり、外出したりして、職員や、利用者様と馴染みの関係を作ったりしている。また、利用者様の馴染みの物を置いたりして、馴染みながら、本格的に利用に移っていけるようにしている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に食事をしたり、常に共に過ごしている。其の中で言葉に出さないでも、態度や変化で、一人ひとりの訴えに気づく事ができるようになった。		
28	〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	変化に気づいたらすぐに家族に連絡をとり、どんな小さな事でも報告するようにしている。		
29	〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時、またはその都度電話等にて、本人の希望、家族の思い等をしっかり伝えていく努力をしている。		
30	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時気軽に何度も着ていただけるように、職員も一緒になって歓迎している。また、会いたい人があったら、同行している。（施設入所されている奥様や、ご主人様の面会等）		
31	〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いに片付けをを手伝ったり、会話ができるように職員が仲をとりもったりしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	暑中見舞いのハガキ、年賀状を出したり、また、行事の案内状を出して、関係を続けている。また、喜んで参加されている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握				
33	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや、希望をケアプランの中に入れている。また、困難な場合は、職員が、本人の希望や、思いをくみ取って、本人の視点に立ってプランをたてている。		
34	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時、家族や、関係者の人からどんな小さな事でも情報を得るようにしている。		
35	〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人はもちろん、家族や、関係者の人からどんな小さな事でも情報を得るようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	〇チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人はもちろん、家族、本人をよく知る関係者と話し合い、希望や思いを取り入れた介護計画を作成している。		
37	〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化が生じた場合新たな計画をその都度作成している。週2回ケアチエック、その都度状況を全職員に聞き、3ヶ月毎にカンフアレンス、6ヶ月毎に計画をたてている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録にケアに基づき記録を記入している。それから情報を得見直しを行っている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、24時間連絡体制を整え対応している。重度化した場合についても本人、家族様の意見を聞きおこなっている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	〇地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて、運営推進会議のメンバーの方と協力しながら支援するようになっている。		
41	〇他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用時は、協力を得るようになっている。		
42	〇地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、運営推進会議のメンバーの方と協力しながら支援するようになっている。		
43	〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況に応じて本人や家族が希望する医師に医療を受けられるよう、また、通院時家族が行けない時には、通院の同行も行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	〇認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設で、医院があるためすぐに相談できる。また、治療も受けられる体制である。		
45	〇看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携もとっており、また、当施設には、看護職員も配置している。		
46	〇早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時より相手のケースワーカーと連携をとり、情報を交換している。		
47	〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明し、同意を得ている。		
48	〇重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化対応・終末期ケア対応指針に掲げ、説明している。		
49	〇住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居時サマリー作成し情報をつたえている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
１．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員がプライバシーの確保を徹底していく事を常に言っている。半年に1回自己点検表にも掲げ再確認している。また、個人情報保護法についての勉強会もとっている。		
51	〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何をする時も利用者様の意向をまず伺って、柔軟な対応をするようにしている。		
52	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで仕事をしないで、入浴や、食事時希望を聞いて、その人のペースに合わせて支援している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望を聞いて行っている。本人の望む店には、家族様が同行される。		
54	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	殆ど毎日利用者様と買い物に行き、旬の食材や、新鮮な物を採り入れている。食べたい物を聞いてメニューを組んだり、利用者様の好みや、苦手なものをよく聞いて、その人に合ったメニューで提供している。また、一緒に食事をし、後片付けも一緒に行っている。		
55	〇本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在タバコを吸う人はいないが、本人の好きなおやつ等を買い物の時に一緒にかったり、また、お酒の好きな人」には、提供している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	〇気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全職員が、排泄のパターンを把握し、トイレ介助している。また、状態をよく観察して、訴えに気づき介助している。		
57	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴実施している。無理強いせず一人ひとりの希望や、タイミングにあわせて、入浴を楽しめるよう時間も決めていない。		
58	〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて、また、その時の状況にあわせて支援している。また、ちょっと休憩できるよう、リビングに、ソファーを置いている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合った楽しみや、役割を見つけて、出来る事、出来そうである事などを探し出して支援している。		
60	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様から預かり、施設側が一応管理している。職員と一緒に買い物へ行く時は、一人ひとりに持たせて使えるよう支援している。		
61	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物へ行ける人は行ったり、また、天気の良い日は、散歩。ほぼ毎日戸外へでるようにしている。		
62	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事の中に組みいれてます。家族様の希望あれば参加していただいています。（4月お花見・9月ぶどう狩り・11月秋の遠足・すべてバス旅行です。）		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればそのように支援している。また、暑中見舞いのハガキや、年賀状を本人が書いて出している。字が書けない人も絵を描いたりして支援している。		
64	〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時はゆっくり過ごしていただけるよう、自室にお茶、お菓子等用意しておもてなしをしている。		
tou				
65	〇身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目につきやすい所に掲げ、毎日チエックしている。時々勉強会をとっている。		
66	〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。		
67	〇利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時安全確認行っている。		
68	〇注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて取り組んでいる。		
69	〇事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険が高い人には、たたみの部屋にしたり、状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時マニュアルを参考にしている。その都度ナース、院長より指導あり。		
71	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回実施している。地域運営推進会議の中で話題にして、呼びかけている。	〇	今後もっと話合って具体的な支援等について話合う必要あり。
72	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時または、その都度家人に設明している。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	すぐに併設の医院に連絡し、速やかに対応している。		
74	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解している。カルテに添付している。		
75	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分はもちろん、便通の良い食べ物を提供したり、腹部をあたためたりしている。		
76	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	無理強いせず、毎食後一人ほとりのペースにあわせたやり方で支援している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食確認している。（チエック表使用）水分摂取の少ない人には、好みの飲み物等すすめている。食事時間も一人ひとりにあった時間帯に合わせている。		
78	〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策委員会を設置し、会議をとっている。毎日の掃除時、消毒をしたり、うがい、手洗いの徹底。また、ノロ対策の準備。常に全員が、意識している。		
79	〇食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買いだめはしない。ほぼ毎日買い物に行っている。台所、調理用具等消毒している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にベンチを置いたり、花を置いたりして、休憩できるようにしている。		
81	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を植えたりしている。食事をする場もゆっくりとしている。リビングにソファアー等を設置し、ゆっくりくつろげるようにしている。		
82	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター前には、イス等を置いて、休憩できるようにしている。食堂にもイスを置き、くつろげるようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	いままで家で使っていた物、（タンス、のれん、お茶碗、裁縫道具、布団）等使い慣れた物や、好みの物を置いている。		
84	〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計を設置し、こまめに温度調節や、換気したりしている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	てすりをつけている。（廊下、トイレ、浴槽）		
86	〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る事、出来そうである事を探し出し、その人に合ったプランをたてている。		
87	〇建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植えたり、野菜を作ったりしている。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日基本理念を頭におきながら、支援する事を一番にしています。利用者様、御家族様の思いに耳を傾け、安心して暮らせる、居心地の良い、信頼できるホームをめざしています。
（アピールしたい点）　医療法人の併設になっており、安心して医療がうけられる支援体制を２４時間整え、対応しています。建物の作りも車椅子対応となっており、重度化した場合も安心して暮らせるようになっています。また、本人、ご家族様の希望があれば、なじみの場所で終末を向かえる事ができるような、看取りのケアもおこなっています。